

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【交流】【食】

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 1. 都道府県、市町村 | 大分県 ^{ぶんごたかだし} 豊後高田市 |
| 2. 事業者名 | ふき活性化協議会 |
| 3. 取組みの名称 | 「農業と観光が調和した地域づくり」を目指して |
| 4. 取組概要等 | |

◇概要

平成7年に、ほ場整備後の集落農業のあり方や地区の将来像について検討する組織として「落地区地域デザイン協議会」が設立された。地域住民、関係機関で構成される協議会では、「農業と観光が調和した地域づくり」をスローガンに営農体制、地域環境、都市農村交流、地域コミュニティ等について検討してきた。地域デザインは平成9年に完成し、名称を「ふき活性化協議会」とし、現在はむらづくりの調整役を担っている。

協議会は全住民参加のコミュニティ組織であり、農業振興面では農事組合法人「ふき村」が中心となり、生活・環境面では自治会の協力や小中学校、体験宿泊交流施設等と連携し、多彩なむらづくりを進めている。

①農業振興の面

農事組合法人「ふき村」が3集落1農場方式の生産体制を確立するとともに、ぶんご合鴨肉の「ゆうパック」や農産物加工直売所「蓮華」に代表される6次産業化を図った農業経営が効率的に行われている。

②生活・環境の面

国宝「富貴寺」を中心とした伝統行事の継承や子どもたちへの食農教育・体験学習を推進し、また都市住民に対してはふれあいウォーク、景観づくり、郷土料理などの体験を通じたグリーンツーリズムを実践している。

過疎化・高齢化、谷沿いの狭小な農地など中山間地域の条件不利地域でありながらも、ほ場整備を機に集落営農体制を確立し、特産品の加工販売など農業の6次産業化への発展とともに、世代間の交流・都市住民との交流を活発化させ豊かで住みよいむらを実現している。

◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
作付け面積	78,670	139,550	138,110	133,000	145,880
水稻	解説 単位：㎡				
作付け面積	197,660	196,340	185,510	154,560	175,420
麦	解説 単位：㎡				
作付け面積	77,530	24,720	31,220	60,040	51,550
大豆	解説 単位：㎡				
作付け面積	58,090	56,020	57,620	75,000	91,700
そば	解説 単位：㎡				
イベント	5	5	5	5	5
回数	解説 単位：回 ふれあいウォーク、盆踊り				
イベント	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
参加者	解説 単位：人 ふれあいウォーク、盆踊りの参加者				
露臺利用者		4,251	8,783	8,592	8,139
人数	解説 単位：人 露臺の宿泊、食事及び体験の利用者数				

◇活用している地域資源

豊後高田市は、国宝の富貴寺や熊野磨崖仏をはじめ、国東半島六郷満山仏教文化を色濃く残す地域で「仏の里」として年間約70万人の観光客が訪れる。また、平成13年より地元商店街が昭和30年代をテーマに改修した「昭和の町」が脚光を浴び、年間28万人の観光客が訪れる市内の新たな観光地となっている。

ふき地域としては、国宝の富貴寺を中心とした地域に伝わる様々な伝統行事がある。その他特産品として椎茸や茶、白ネギ等があり、郷土料理にも活かされている。

また、農村レストランも兼ねた体験交流宿泊施設「旅庵落臺（ふきのとう）」や農山加工直売所「蓮華」等も地域の活性化の一役を担っている。

◇地域活性化のポイント

・「農事組合法人ふき村」の設立により3集落1農場方式を確立し、経理の一元化を図るとともに部会制を導入した。

・国宝「富貴寺」を中心とした地域に伝わる様々な伝統行事を継承するとともに、地域内の小中学生に対して、ぶんご合鴨や地域農業を教材とした食農教育や体験学習を実施している。

・落地区の良さに惚れ込んで移住する人が増え、平成12年以来、I・Uターン家族24名（総人口の233人のうち約1割）を受け入れ、若い人が増えたことで新たな集落の活力が生まれている。

・シンボルづくりとして地区名に由来のあるツワブキを河川敷に植栽し、さらにナバナ、レンゲ、茶、そば等の栽培による四季折々の景観づくりを行うとともに、体験交流宿泊施設における地元の食材を使った郷土料理の提供や体験交流プログラム等で都市住民にグリーン・ツーリズムを発信している。

◇事業の今後の展開方向

・「むらの自治」、「むらの農業」、「むらのシンボル（観光）」が融和した協議会の取組みを将来に渡って安定的に継続するために「攻め」の気持ちを持って積極的に行っていく。

①儲かる農業への挑戦

落地区は、今まで集落営農や経理の一元化等の取組みを行ってきたが、さらなる所得向上のため、近隣の地区に出作を行い規模拡大を図っていく。

②子供たちに農業の大切さを伝えたい

落地区では「子供はむらの宝」のもと、地元小中学校と連携を図り農業体験や農産加工体験を実施してきたが、今後も活動を継続し、「食の大切さ」や「農業の大事さ」を子供たちに学ばせるとともに、将来何らかの形で農業に従事できるよう「農業の魅力」を伝えたい。

③ふるさとに戻ってきたいと思えるむらづくり

落地区には、7家族24名がI・Uターンにより移住してきたが、むらの維持発展には今後も定年退職者等を中心とした受け入れが必須と考えている。そこで、受け入れにあたっては田舎でも都会並の生活ができるような体制整備を行っていく。

